

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812610		
法人名	有限会社 グループホームさんぼみち中仙		
事業所名	グループホームさんぼみち中仙		
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1～1		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を通じ毎朝、ラジオ体操、歩行、手足の運動実施による利用者全員の筋力低下防止に力を入れております。施設周辺は施設の理念にも唄われているように広大な田園風景の中に立地し、利用者が自分らしく自分のできる事に参加しながら、生きがいを見出せるよう、又、体力維持向上に努めた支援に取り組んでおります。食前の嚥下体操を行う当番には各利用者様を、担当割し当番予定表を立てながら1人、1人に順番が巡ってくるよう考慮した意欲低下防止に繋げており、その成果も得られております。日中はトランプ、カラオケ等を楽しまながらも自立の支援と意欲をもって生活出来るよう全スタッフが支えています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員の交代等がありましたが、管理者が具体的な言葉かけや対応方法をその都度職員に伝えることにより、利用者のホームでの生活を支えています。利用者同士の関係性やこれまでの生活状況の理解に努め、時間にとらわれず、「自分らしく」過ごせる支援を心がけています。

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝、当日の出勤スタッフが確認も兼ねて一緒に読むようにし、理念を共有した支援内容からは、ずれる事のないよう再確認し話合っている	ホールに理念と共にケアの心得が掲示されており、実践に繋げることができるよう努力されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や敬老会等には積極的に参加もし、なるべく地域住民との繋がりが多くなるよう考慮し、交流の機会を図っている	小中学校の行事に招待を受けても、利用者の身体状況によって長時間の参加に無理があることから控えており、近隣住民との交流やホーム周辺を通る住民もなく、地域との関わりが薄い状況です。	運営推進会議を活用する等、地域との繋がりを確保するためにもホーム自体が地域の一員として相互に協力し合える関係づくりに積極的に取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	部落の座談会等には出席させてもらいながら理解を求めたり、支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前よりは家族の出席を積極的に呼びかけた事で参加も多くなり又、そこで出た意見や案等はサービスに反映させ、前回、出席できなかった方の為には前回の報告書も添えるようにしている	ホームの現状を報告し、出された意見をサービス提供に反映できるよう努めています。	誰が見てもわかる記録の仕方及び広く意見を得るために参加メンバーの充実を図ると共に事業報告に留まることなく進行の仕方に工夫し、会議を運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	依頼があった場合や各種の調査等には応じ、又、市町村からの助言も受けながら速やかな改善となるよう取り組み、協力関係を築いている	運営推進会議を通じてホームの状況を把握していただき、意見を取り入れて改善に努めている他、必要に応じて随時相談し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にも題材テーマとして身体拘束について取り入れ、回覧方法で確認してもらいながら各スタッフに理解を得るようにしている。身体拘束のないケアを目指し、現対象者もない	職員は研修を通じて、また日常の業務を通じて身体拘束とならないよう取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、周囲で見過ごされていないかを、常に注意深く観察もしながら防止に努めている。法令遵守も申し送り時に確認し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を受けている方が入居している事により毎月の訪問もあるが都度、スタッフも同席し制度については自然と学ぶ機会も得、理解した上で支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約内容をしっかりと説明し、それに対する疑問等があった場合には十分に説明を行いながら理解と納得を得た上で行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議により出された要望、意見等は可能、不可能もあるが、可能な限り運営に反映させるように努めている	家族の面会は多く、訪問できない家族とも電話で話し、意見を聞いて改善に繋げており、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際には各職員の意見や提案を聞くようにしている。又、意見や要望があった場合は何回かに分けミーティングしながら全スタッフの意見も聞き、代表取締役等とも意見交換の場を随時設けるようにしている	職員会議を設けていないため、申し送りの際に意見を出し合い、反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員、個々の能力を引き出しながら給与水準や労働時間について理解を得て決定している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全職員が、教育を受ける機会を多くし、個々のケアにおける力量アップに力を入れている。積極的に内部、外部の研修を受ける機会の確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他の同業者とのネットワークづくりに於いての交流や勉強会は行ってなく、これについては現在も、各方向面からも視野に入れながら模索中でもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み初期の段階で本人が困っている事や要望等はなるべく詳細な情報を得るようにし又、十分に耳を傾けるように努めている。入居後も、お茶の時間等にはスタッフも同席し安心を確保し、信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族が困っている事や、本人の思いを十分に聞き、同意を得ながら信頼関係を築くよう努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が、今現在、出来ていることに着目し、食器拭き、掃除機かけのお手伝い等を通して役割感が生まれている		
18		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話連絡や、毎月のお便りを通し、近況の様子をお伝えしている。尚、家族からの要望等があれば応じるようにしている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から末永く利用している行きつけのパーマ屋さんへの要望には入居後もなるべく要望にお応え出来るよう援助している。又、面会時にも居室でゆっくりしたひと時を過ごせるよう配慮している	馴染みの美容院へは店主の協力があって継続利用できており、利用者は楽しみにされています。利用者の得意なことや皆でできる遊びがホームに居てもできるよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の力量、出来る事を把握しながらレクやお手伝いには参加して頂くようにしている。そこで支え合う関係も生じ、孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、引き続き必要であれば情報提供、相談事には応じるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時の事前には、本人からの要望は勿論、モニタリングには家族や両方の意向や希望の聞き取りをしている	利用者の訴えや聞き取ったこと、気付いたことを日常の生活に活かせるよう記録し、職員間の共有が図られています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントを基に、本人との色々な場面でのやりとりで得た情報を記録し、又、新たな心境の変化等があった場合も記録している		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれが得意とする事は持続しながら、塗り絵、花札等が出来るように支援している		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状の変化は全スタッフに周知し、共有するよう同じケアを目指し、家族との連携も得ていき、必要に応じてはケアプランの見直しも図っている	3ヶ月～6ヶ月或いは状況に応じて随時見直しが行われ、全職員の意見を聞き、介護支援専門員が介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った、記録をし朝の申し送り等で出た、様子の変化に対しては計画の見直しにも役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所、消防署等の緊急施設、かかりつけ医、嘱託医の医療機関に協力を求め、安全で安心な生活が出来るように努めている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診を行い、体調の変化に応じて支援体制を整え対応をしている。処方薬についても、かかりつけ医、薬局と連絡を取りながら健康の維持に努めている	協力医が近いことから入居時に変更された方もありますが、状況に応じて他院や希望の医療機関で受診されています。職員が自分の車を使用して通院介助にあたっているため、吹雪等の天候不順時には対応できないこともあります。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所(ショートステイ)の看護師のアドバイスや情報を得たり、代表取締役とも意見交換し、常に早めの受診対応に努めている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院、医療関係者とは連絡を密に取り合いながら入院前の生活に早めに戻れるよう、情報交換を行っており、本人は退院後も戸惑うことなく生活しています		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、対象となる方はいないが今後の方針としては視野に入れ、具体的な方針を打ち出し現実的なものにしていく為に、多様な関係者と共に支援していきたい	看取りに対応できる体制にないため、ホームで可能な支援を行うことで了承を得ています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対象者は、現在居ないが早い段階で方針を打ち出し、現実的なものにし関係者と共に支援していきたい		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。手順については助言等も頂いているが対応については、より以上に危機感を抱く必要を感じる。常時、水を確保して災害には備えているが協力体制の具体化はまだ課題である	2階にホームがあることから、火災発生時の避難については消防の協力が得られることになりました。浴槽に水を張る等の対策はされていますが、食料の備蓄や近隣の協力体制については課題となったままです。	備蓄及び状況に応じた避難経路と避難場所、近隣の協力体制の在り方等、利用者と職員の安全を確保できる対策を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり、一人の人格を尊重し又、プライバシー保護には十分に配慮し対応している。特に排泄に関する失禁時には声かけの際、声のトーンにも配慮しながら対応している	トイレ介助の際の声かけやポータブルトイレの処理等には本人の気持ちを尊重して周囲に気を配り、入室の際のプライバシーの配慮にも心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やレクの際にはスタッフも同席するようにし、気軽に話せるような雰囲気づくりに配慮し努めている。日々、抱いている個々の希望や、思いを聞き出しながら自己決定できるよう働きかけている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある特定の方だけとにならないよう、日頃から何気ない、お茶の時間の会話に耳を傾け要望、又は希望等を聞けるような努力をしている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度時から始まり、身だしなみの不十分な際には声かけし、又、自身で行えない方には支援している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には嫌いなものと好物をよく把握しながら作成するように努めている。おやつ時には時折、利用者とスタッフで、どら焼き作りにも挑戦したりしている。食事の準備や片づけには利用者も積極的に手伝っている	お節料理等の季節の行事食を利用者と一緒に調理し、できることをしていただくことで力を活かすことができ、楽しみに繋がる支援をされています。受診後に外食されることもあります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚、野菜をバランスよく含んだメニュー作りに意識しながら献立し又、水分不足気味になってしまう方にはスポーツドリンクや番茶の摂取等を促している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の都度、声かけしている。入れ歯装着の方には外してもらい、うがいや入れ歯の洗浄と清潔維持に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外は殆ど、定期的に声かけしトイレ誘導。又、排尿、排便をチェック表にも記入している。夜間にも声かけで極力、トイレでの排泄を促している	布パンツで過ごしている方は一人だけで、ほとんどの方が何らかの排泄用品を使用されています。機能の改善はなかなか望めないものの、チェック表を活用し、現状が維持できるよう努力されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を毎日確認している。食事にもなるべく食物繊維を多く含む食物を取り入れたり他に、歩行運動実践。排便間隔が大きく空いてしまう方には薬によるコントロールも心掛けている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前バイタルを行い体調確認後に、週2回の定期入浴をしている。又、体調悪い方には清拭を行っている	週2回、曜日と時間が決められているため利用者主体の支援とは言えませんが、環境を整えて少しでも入浴を楽しむことができることを心がけ、清潔管理に努めています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	春から秋には好天気には、こまめに布団干しや外気浴も兼ね散歩を行っている。冬季も広い廊下を利用して歩行や運動を行っている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成している。又、処方薬について疑問のある利用者にも、いつでも説明でき疑問に応えられるよう努めている。誤薬や飲み忘れ防止にも全スタッフが緊張感を持ちながら服薬支援をし記録も徹底している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲低下防止に繋がっていくよう食前の誤嚥予防体操の担当に、利用者を担当者割りし予定表作成。順番に巡ってくる事により、意欲低下防止に効果も見られている。他事業所出向き共同レク行いながら気分転換も図っている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭や行事には積極的に出かけて行き、その時々、もようのものや、バザーでの買い物を楽しんでこられた利用者もいる。他、スタッフと買い物同行もしている	ホームに専用車がないため、頻回な外出は困難ですが、季節の花見等を企画して外出の機会をつくっています。冬季以外は花壇づくりをされ、外での体操を日課としている方もあり、戸外で過ごせる支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設の方針として、お金の所持を禁じているが、年1回、買い物ツアーを企画し計画している。それぞれの方が買い物し自身で支払うことで、お金の大切さも感じとってもらっている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合には、家族や知人にはいつでも連絡がとれ、手紙や年賀状等の投函支援もしている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室温調整をこまめに行い、又、ホールには季節を感じれるような掲示物や飾りつけをしている。四季を通して居心地よくした空間づくりに努力し努めている	浴室及び脱衣所が広い造りとなっておりますが、冬季の入浴の際には少しでも快適に入浴できるように、また、ホール、廊下の広い共用空間も温度差に配慮して過ごしやすくなるように対応されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にも新たにテーブルソファを設置し、ホールと同様に気の合った利用者同士が会話し、くつろげるように配慮している。状況により男女の席替えでも気分転換も図っている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前なるべく使い慣れ親しんだ物を用意してもらう事は家族にも伝えており、入居後も家族写真や馴染みのタンスを配置したりする事により環境の極端な変化の防止と居心地よくする工夫に努めている	入居前に使用していた家具を持ち込んでいる方や遺影に毎日水を供えている方等、それぞれが居心地の良い生活の場となるよう居室づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行通路となっている廊下は、安全に歩行できるよう又、転倒の誘発となる物等は置かず整備している。掲示物等も見やすい位置、大きさに考慮し1日の流れを、どなたにもわかり易く掲示している		